

科目名	テスト技法						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松嶋 貴志		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	近年、ソフトウェアがますます巨大化し社会インフラとしての役割を果たすようになった。そのためソフトウェアに求められる品質要求は高まり続け、その高品質を実現するソフトウェアテスト技法が重要となっている。本科目では、ソフトウェアテストの考え方・適用方法、および現場でも活用できる実践的なテスト技法を習得することを目指す。 iCDタスクコード DV05.8.1,DV05.8.2,DV05.8.3,DV08.6.1,DV08.6.2,DV08.6.3						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				システム開発におけるテストフェーズの重要性を理解し、説明できる	
		○				テストを実施する際の様々な技法について理解し、説明できる	
		○				簡単なテスト項目の作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	SB Creative 【この1冊でよくわかる】ソフトウェアテストの教科書 [増補改訂 第2版]						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ソフトウェアテストとは/ソフトウェア開発の流れとテスト工程			事前に教科書の"PART1 ソフトウェアテストの基礎"を読んでおくこと。		
	2	ホワイトボックステスト					
	3	ブラックボックステスト					
	4	同値クラステスト・境界値テスト			事前に教科書の"PART2 さまざまなテスト技法"を読んでおくこと。		
	5	同値クラステスト・境界値テスト(続き)					
	6	デシジョンテーブルテスト					
	7	デシジョンテーブルテスト(続き)					
	8	状態遷移テスト					
	9	組み合わせテスト					
	10	テスト技法適用チャート					
	11	テストドキュメントの作成			事前に教科書の"PART3 テストドキュメントとモニタリング"を読んでおくこと。		
	12	テストドキュメントの正しい書き方					
	13	テスト実施のモニタリング					
	14	アジャイル開発とテスト					
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	課題・レポート		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを使用する。						

科目名	Webプログラミング演習ⅢA						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	今村 美穂・小井手 武治		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	SpringフレームワークによるWebアプリケーション開発技術を習得する。						
	iCDタスクコード : DV08.1.1,DV08.1.2,DV08.1.3,DV08.1.4,DV08.1.5,DV08.2.1,DV08.2.2,DV08.2.3,DV08.2.4						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		Webアプリケーションについての用語を説明できる。	
		○		○		Webアプリケーションの開発環境を作成することができる。	
		○		○		SpringMVCIについて説明できる。	
		○		○		DIとAOPの仕組みを理解して、DBと連携したWebアプリケーションを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Spring Framework超入門 やさしくわかるWebアプリ開発(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-4	開発環境の構築、Java復習			開発環境を作り、Javaの基礎復習		
	5-8	Webのしくみ、サーブレット基礎					
	9-12	SpringFrameworkのコア機能(1)			DIコンテナ		
	13-16	SpringFrameworkのコア機能(2)			アノテーション		
	17-20	SpringFrameworkのコア機能(3)			AOP		
	21-24	SpringFrameworkのコア機能(4)			SpringInitializr		
	25-28	データベースの作成と操作1、確認テスト			確認テストの勉強をしておくこと		
	29-32	MVCモデル					
	33-36	MVCモデルを利用した演習問題(1)					
	37-40	MVCモデルを利用した演習問題(2)					
	41-44	テンプレートエンジン					
	45-48	リクエストパラメータの取得					
	49-52	バリデーション機能					
	53-56	総合演習A(1)			DB利用したミニアプリ作成		
	57-60	総合演習A(2)、確認テスト			確認テストの勉強をしておくこと		
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題を数回実施する。(3)確認テストを数回実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験(筆記)			◎				40%
課題			◎		○		40%
確認テスト			◎				10%
受講状況					◎		10%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	システム開発演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	手嶋 隆之・今村 美穂・小井手 武治・西野 直幸・松嶋 貴志・木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	チームによるアプリケーション開発作業を通じて、企画、設計書作成(画面設計書とデータベース設計書等)から構築までの一貫したプロセスを演習する。						
	iCDタスクコード	DV05.1.1,DV05.1.2,DV05.1.3,DV05.1.4,DV05.2.1,DV05.2.2,DV05.2.5,DV05.5.1,DV05.6.1,DV05.6.1,DV05.6.4					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
		○				納品準備・納品をすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(説明)					
	2~3	オリエンテーション(企画)				企画を考えておくこと	
	4	オリエンテーション(チームビルディング)					
	5~6	環境構築				授業時間内に終わらなかった分は各自終わらせておくこと	
	7~11	企画検討(プロトタイプ作成、設計書作成)					
	12	企画レビュー				レビューまでに、資料を作成しておくこと	
	13~19	構築フェーズ1					
	20	フェーズ1動作確認会				動作確認の準備をしておくこと	
	21~39	構築フェーズ2					
	40	フェーズ2動作確認会				動作確認の準備をしておくこと	
	41~56	構築フェーズ3					
	57~58	最終成果物発表会				発表会の準備をしておくこと	
	59~60	成果物提出、納品準備				納品資料を全て作成しておくこと	
評価方法	(1)成果物提出(チーム、個人)を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。やむをえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況(チーム)		◎		○		30%
	成果物提出状況(個人)		◎		◎		30%
	レビュー		○		◎		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを利用する。						

科目名	ゼミナールⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	手嶋 隆之		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科高度ITシステム専攻3年、情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	IT業界の仕事について知る。就職活動に備え、各自の進路を決める準備をする。 履歴書作成の準備を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				IT業界の特徴を説明できる	
		○		○		業界と職種の志望理由を述べることができる	
	○	○		○		就職採用試験に提出する履歴書が準備できる	
テキスト・教材 参考図書	世界一わかりやすい IT業界のしくみとながれ ソシム 麻生塾オリジナル 就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職の目的 /働くこと、社会人基礎力の理解 就職活動ルール					
	2	業界研究1					
	3	業界研究2					
	4	業界研究3				IT業界について調べておくこと	
	5	職種研究1					
	6	職種研究2					
	7	職種研究3				希望職種について調べておくこと	
	8	業界・職種志望動機まとめ1					
	9	業界・職種志望動機まとめ2					
	10	自己PR作成1					
	11	自己PR作成2				自分史、将来の計画を考えておくこと	
	12	履歴書作成1					
	13	履歴書作成2					
	14	履歴書作成3					
15	履歴書作成4				履歴書を提出すること		
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)課題・レポート提出を数回課す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	課題・レポート提出		○		◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅢ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	<p>ディベートの基礎知識を習得し、実習を行うことで論理的な討論技法を段階的に身につける。 ①客観的、批判的、多角的な視点が身につく。②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③自分の考えを筋道を立て、人前で堂々と主張できるようになる。</p> <p>iCDタスクコード 該当なし</p>						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ディベートの手法を理解できる。	
		○				きちんと理由、筋道をつけて自分たちの主張を相手に伝え、納得してもらうことができる。	
テキスト・教材 参考図書	ネコと学ぶディベートの本 デザインエッグ社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 ディベートとは 第2章 ディベートのルール					
	2	第3章 ディベートの基礎					
	3	第4章 立論の作り方					
	4	第5章 反駁の考え方				授業内容に係るレポート作成および提出	
	5	第7章 ディベートを行う準備 第9章 ジャッジ					
	6	①テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	7	①ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	8	②テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	9	②ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	10	③テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	11	③ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	12	④テーマ発表・準備				授業内容に係るレポート作成および提出	
	13	④ディベート実技／振り返り／講評				授業内容に係る実技レポート提出	
	14	まとめ1					
15	まとめ2						
評価方法	(1)演習ごとにレポートを実施する。(2)確認テスト(実技)を数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	◎		○		25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅢA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)					
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習					
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)					
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)					
	5	国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)					
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)				小テストの範囲を復習しておくこと	
	7	小テスト 国語分野1~5、数学分野(1~6)					
	8	小テスト 返却&解説&見直し				小テストの不正解の問題を見直すこと	
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)					
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)					
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)					
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)					
	13	数学分野(13:集合)					
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)					
15	期末試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	クラウド実践演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	志水 徹		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	IaaSを提供するクラウドサービスの代表的なAmazon Web Servicesを使い、インスタンスの生成、Webサーバの設定、データベースの設定などを通じて、クラウド上でWebアプリケーションを提供する環境を作成することができる。 iCDタスクコード : DV05.3.1,DV05.3.2,DV08.3.1,DV08.3.2						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		クラウドの仕組みを説明できる	
		○		○		インスタンスを生成することができる	
		○		○		Webサイトを公開することができる。	
		○		○		LAMP環境を構築することができる	
テキスト・教材 参考図書	技術評論社 ゼロからわかる Amazon Web Services超入門 はじめてのクラウド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CHAPTER1 Amazon Web Servicesとは何か					
	2	CHAPTER2 AWSをはじめよう AWSアカウント作成					
	3	CHAPTER3 Webサイトを公開しよう					
	4	CHAPTER3 Webサイトを公開しよう				出来なかった分は家庭で実施しておくこと	
	5	CHAPTER4 LAMPサーバーでWordPressを動かそう					
	6	CHAPTER4 LAMPサーバーでWordPressを動かそう					
	7	課題作成その1				期限までに実施すること	
	8	CHAPTER5 データベースを活用しよう					
	9	CHAPTER5 データベースを活用しよう					
	10	CHAPTER6 固定IPアドレスとドメイン名を使おう					
	11	CHAPTER6 固定IPアドレスとドメイン名を使おう					
	12	CHAPTER7 安全な通信を使おう					
	13	CHAPTER7 安全な通信を使おう					
14-15	課題作成その2				期限までに実施すること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを複数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎		○		30%
	課題・レポート		◎		○		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを利用する。再試験は実施しない。						

科目名	モバイルプログラミング演習基礎						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	手嶋 隆之		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	Androidプラットフォームのアーキテクチャを理解し、環境構築から開発、端末での動作確認まで一連の流れを習得する。サンプルプログラムの作成、演習課題の作成を通し、Androidアプリケーション開発に必要な知識を身に付け、作品開発ができるようになる。 iCDタスクコード : DV05.3.1,DV05.3.2,DV05.7.3						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Androidの概要、Androidアプリケーションフレームワークの利用方法が理解できる。	
	○	○				Androidプラットフォームのアーキテクチャを理解できる。	
		○	○			AndroidSDKマニュアルを読んで、自力でアプリケーションの開発ができる。	
テキスト・教材 参考図書	SB Creative はじめてのAndroidプログラミング第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	Chapter1 開発環境を準備しよう					
	4-6	Chapter2 AndroidStudioを使ってみよう				AndroidStudioの環境を整えること	
	7-8	Chapter3「ちわ！あんどろいど」で初アプリ作成					
	9-11	Chapter3の続き、Chapter4 Kotlinを使ってみよう					
	12-14	Chapter4の続き					
	15-17	確認テスト、Chapter5 じゃんけんアプリ				確認テストに向けて、復習する事	
	18-20	Chapter5の続き、Chapter6 体系記録アプリを作ろう					
	21-23	Chapter6の続き、Chapter7 フラグメントで動物図鑑を作ろう					
	24-26	Chapter7の続き					
	27-29	Chapter8フラグメントを使ったスライドショーアプリ					
	30-32	Chapter8の続き、Chapter9カウントダウンタイマーを作ろう					
	33-35	Chapter9の続き、Chapter10カメラアプリを作ろう					
	36-38	確認テスト、Chapter10の続き、総合演習				確認テストに向けて、復習する事	
39-41	総合演習						
42-45	総合演習、アプリコンテストの紹介						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)課題提出を数回実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	○	○				20%
	課題提出		○	◎			20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	PCを使用する。						

科目名	情報処理試験対策春対策A						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	46時間	担当者	川野 啓祐		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~10	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	11~23	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策秋対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	32時間	担当者	川野 啓祐・姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	9-16	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							